

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2016-106972

(P2016-106972A)

(43) 公開日 平成28年6月20日(2016.6.20)

(51) Int.Cl. F 1 テーマコード (参考)
A 4 5 B 9/04 (2006.01) A 4 5 B 9/04 A 3 B 1 0 4

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号	特願2014-249579 (P2014-249579)	(71) 出願人	514315230
(22) 出願日	平成26年12月10日 (2014.12.10)		樋口 正
			東京都大田区田園調布本町16の12
		(74) 代理人	100096426
			弁理士 川合 誠
		(74) 代理人	100089635
			弁理士 清水 守
		(74) 代理人	100116207
			弁理士 青木 俊明
		(72) 発明者	樋口 正
			東京都大田区田園調布本町16の12
		Fターム(参考)	3B104 AA01 DB02

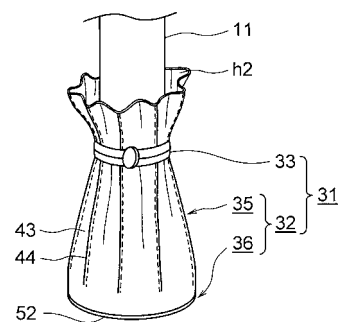
(54) 【発明の名称】 杖先カバー

(57) 【要約】

【課題】使用者が、杖を床面に安定させて突き当てることができ、安全に歩行することができるようにする。

【解決手段】側面包囲部35及び底面包囲部36を備えたカバー本体32と、カバー本体32を杖11に固定するための固定部材33とを有する。側面包囲部35は、外周面における複数箇所に、高さ方向に延在させて形成されたステッチ44を備え、底面包囲部36は、底板部、底板部の下面に取り付けられた第1の滑止部材、及び底板部の上面に取り付けられた第2の滑止部材を備える。カバー本体32の上端の近傍における内周面に第3の滑止部材が配設される。杖11を床面に突き当てたときに、杖11が床面を滑ることがない。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

(a) 杖の石突き部の側面を包囲する側面包囲部、及び該側面包囲部の下端に取り付けられ、石突き部の底面を包囲する底面包囲部を備えたカバー本体と、

(b) 該カバー本体の上端の近傍における外周面に巻装されて、カバー本体を杖に固定するための固定部材とを有するとともに、

(c) 前記側面包囲部は、外周面における複数箇所に、高さ方向に延在させて形成されたステッチを備え、

(d) 前記底面包囲部は、石突き部の底面に対応する形状を有する底板部、該底板部の下面に取り付けられた第 1 の滑止部材、及び前記底板部の上面に取り付けられた第 2 の滑止部材を備え、

(e) 前記カバー本体の上端の近傍における内周面の、高さ方向における前記固定部材と同じ位置に、杖における石突き部より上方の部分と当接させられる第 3 の滑止部材が配設されることを特徴とする杖先カバー。

【請求項 2】

前記側面包囲部の円周方向における各ステッチ間に、径方向内方に向けて突出させられた複数の湾曲部が形成される請求項 1 に記載の杖先カバー。

【請求項 3】

前記固定部材は、所定のステッチに一体に取り付けられた被係止具、弾性材料から成り、前記被係止具と連結された紐部材、及び該紐部材の所定の位置に取り付けられた係止具を備える請求項 1 又は 2 に記載の杖先カバー。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、杖先カバーに関するものである。

【背景技術】**【0002】**

一般に、歩行を補助するための杖は、ロッド部、ロッド部の一端に形成された石突き部、及びロッド部の他端に形成された握り部を備える。

【0003】

ところで、屋外で使用した杖をそのまま屋内で使用すると、屋外で使用したときに石突き部に付着した汚れによって屋内の床面が汚れてしまう。特に、介護施設、病院等においては、杖の使用者の出入りが多いので、例えば、屋外で使用された杖の石突き部にウィルス等が付着していると、介護施設、病院等の利用者がウィルスに感染するおそれがある。

【0004】

そこで、杖の石突き部に取り付けることによって、屋外で使用した杖を屋内でも衛生的に使用することができるようにした杖先カバーが提供されている。

【0005】

図 2 は従来の杖先カバーを杖に装着した状態を示す斜視図である。

【0006】

図において、11 は杖、12 は該杖 11 に対して着脱自在に装着された杖先カバーであり、該杖先カバー 12 は、シート状の材料によって形成された本体 13、及び該本体 13 に巻装されたベルト 14 から成る。

【0007】

また、15 は、前記本体 13 の上端に形成され、杖 12 の図示されない石突き部を挿入するための開口部、16 は、前記本体 13 の上端の近傍の複数箇所に形成され、ベルト 14 を通すためのベルト通し、17 は前記ベルト 14 の一端に取り付けられたリング、18 は本体 13 の外側底面に取り付けられた滑止めである。

【0008】

開口部 15 から石突き部を挿入した後、ベルト 14 の他端を各ベルト通し 16 に通して

10

20

30

40

50

本体 1 3 の周囲を一周させ、前記リング 1 7 に通すことによって、ベルト 1 4 が本体 1 3 に巻装される。

【 0 0 0 9 】

このようにして杖 1 1 に杖先カバー 1 2 を装着することによって、屋外で使用した杖 1 2 を床面を汚すことなく屋内で使うことができる（例えば、特許文献 1 参照。）。

【 先行技術文献 】

【 特許文献 】

【 0 0 1 0 】

【 特許文献 1 】 特開 2 0 0 0 - 3 0 0 3 1 8 号公報

【 発明の概要 】

10

【 発明が解決しようとする課題 】

【 0 0 1 1 】

しかしながら、前記従来の杖先カバー 1 2 においては、本体 1 3 の外側底面に滑止め 1 8 が取り付けられているので、杖 1 1 が床面を滑ることはないが、杖 1 1 を床面に突き当てたときに、本体 1 3 が変形し、本体 1 3 内で石突き部が移動すると、実質的に杖 1 1 が床面を滑ったことになる。

【 0 0 1 2 】

特に、本体 1 3 の内側底面の面積と、石突き部における前記内側底面と当接する面の面積とが異なる場合は、杖 1 1 を床面に突き当てたときに、本体 1 3 が変形しやすく、本体 1 3 内で石突き部が大きく移動してしまい、本体 1 3 によって石突き部を安定させて保持

20

【 0 0 1 3 】

その結果、杖先カバー 1 2 の状態が極めて不安定になり、使用者は、杖 1 1 を床面に安定させて突き当てることができず、安全に歩行することができない。

【 0 0 1 4 】

本発明は、前記従来の杖先カバーの問題点を解決して、使用者が、杖を床面に安定させて突き当てることができ、安全に歩行することができる杖先カバーを提供することを目的とする。

【 課題を解決するための手段 】

【 0 0 1 5 】

30

そのために、本発明の杖先カバーにおいては、杖の石突き部の側面を包囲する側面包囲部、及び該側面包囲部の下端に取り付けられ、石突き部の底面を包囲する底面包囲部を備えたカバー本体と、該カバー本体の上端の近傍における外周面に巻装されて、カバー本体を杖に固定するための固定部材とを有する。

【 0 0 1 6 】

そして、前記側面包囲部は、外周面における複数箇所に、高さ方向に延在させて形成されたステッチを備える。

【 0 0 1 7 】

また、前記底面包囲部は、石突き部の底面に対応する形状を有する底板部、該底板部の下面に取り付けられた第 1 の滑止部材、及び前記底板部の上面に取り付けられた第 2 の滑止部材を備える。

40

【 0 0 1 8 】

そして、前記カバー本体の上端の近傍における内周面の、高さ方向における前記固定部材と同じ位置に、杖における石突き部より上方の部分と当接させられる第 3 の滑止部材が配設される。

【 発明の効果 】

【 0 0 1 9 】

本発明によれば、杖先カバーにおいては、杖の石突き部の側面を包囲する側面包囲部、及び該側面包囲部の下端に取り付けられ、石突き部の底面を包囲する底面包囲部を備えたカバー本体と、該カバー本体の上端の近傍における外周面に巻装されて、カバー本体を杖

50

に固定するための固定部材とを有する。

【 0 0 2 0 】

そして、前記側面包囲部は、外周面における複数箇所に、高さ方向に延在させて形成されたステッチを備える。

【 0 0 2 1 】

また、前記底面包囲部は、石突き部の底面に対応する形状を有する底板部、該底板部の下面に取り付けられた第 1 の滑止部材、及び前記底板部の上面に取り付けられた第 2 の滑止部材を備える。

【 0 0 2 2 】

そして、前記カバー本体の上端の近傍における内周面の、高さ方向における前記固定部材と同じ位置に、杖における石突き部より上方の部分と当接させられる第 3 の滑止部材が配設される。

【 0 0 2 3 】

この場合、底板部の下面に第 1 の滑止部材が取り付けられるので、杖を床面に突き当てたときに、杖が床面を滑ることがない。また、底板部の上面に第 2 の滑止部材が取り付けられるので、杖が第 2 の滑止部材上を滑ることがなく、杖を床面に突き当てたときに、カバー本体内で石突き部が移動するのを防止することができる。したがって、杖先カバーの状態が安定し、使用者は、杖を床面に安定させて突き当てることができ、安全に歩行することができる。

【 0 0 2 4 】

しかも、前記側面包囲部に複数のステッチが形成されるので、カバー本体の強度を高くすることができる。したがって、杖を床面に突き当てたときに、カバー本体が変形するのを防止することができるので、カバー本体内で石突き部が移動するのを一層防止することができる。

【 0 0 2 5 】

さらに、カバー本体の上端の近傍における内周面に第 3 の滑止部材が配設されるので、固定部材をカバー本体に巻装したときに、第 3 の滑止部材が杖における石突き部より上方の部分と移動不能に当接させられる。したがって、杖を床面に突き当てたときに、カバー本体が変形するのを一層防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 2 6 】

【図 1】本発明の実施の形態における杖先カバーを杖に装着した状態を示す斜視図である。

【図 2】従来の杖先カバーを杖に装着した状態を示す斜視図である。

【図 3】杖の先端部を示す斜視図である。

【図 4】石突き部を示す斜視図である。

【図 5】本発明の実施の形態における杖先カバーを杖に装着する前の状態を示す斜視図である。

【図 6】本発明の実施の形態における杖先カバーを底面側から見た斜視図である。

【図 7】本発明の実施の形態における杖先カバーの部分断面図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 2 7 】

以下、本発明の実施の形態について図面を参照しながら詳細に説明する。

【 0 0 2 8 】

図 3 は杖の先端部を示す斜視図、図 4 は石突き部を示す斜視図である。

【 0 0 2 9 】

図において、11 は杖であり、該杖 11 は、杖 11 の本体を形成する杖本体部としてのロッド部 21、ゴム材料で形成され、ロッド部 21 の一端（杖 11 の使用時における下端）において、杖 11 に対して着脱自在に配設された石突き部 22、及びロッド部 21 の他端（杖 11 の使用時における上端）において、ロッド部 21 と一体に形成され、杖 11 の

10

20

30

40

50

使用者が把持するための図示されない握り部を備える。なお、本明細書において、杖１１の使用時における各部材の下端を、以下、単に下端といい、杖１１の使用時における各部材の上端を、以下、単に上端という。

【００３０】

前記石突き部２２は、上端部に、ロッド部２１を挿入するための開口部ｈ１を備えた小径の第１の筒状部２５を、下端部に、地面等と当接する面、すなわち、当接面としての底面Ｓ１を備えた大径の第２の筒状部２６を、第１、第２の筒状部２５、２６間に、上端から下端にかけて徐々に径が大きくされた円錐形部２７を有する。前記底面Ｓ１には、杖１１を地面等に突き当てたときに石突き部２２が滑ることがないように、凹凸、本実施の形態においては、環状の溝ｍ１、ｍ２、突起部ｋ１～ｋ３等が形成される。

10

【００３１】

ところで、屋外で使用した杖１１をそのまま屋内で使用すると、屋外で使用したときに石突き部２２に付着した汚れによって屋内の床面が汚れてしまう。特に、介護施設、病院等においては、杖１１を使用する人の出入りが多いので、例えば、屋外で使用された杖１１の石突き部２２にウィルス等が付着していると、介護施設、病院等の利用者がウィルスに感染するおそれがある。

【００３２】

そこで、杖１１の石突き部２２に杖先カバーを装着し、屋外で使用した杖１１を床面を汚すことなく屋内でも使用することができるようにしている。

【００３３】

20

つぎに、本実施の形態における杖先カバーについて説明する。

【００３４】

図１は本発明の実施の形態における杖先カバーを杖に装着した状態を示す斜視図、図５は本発明の実施の形態における杖先カバーを杖に装着する前の状態を示す斜視図、図６は本発明の実施の形態における杖先カバーを底面側から見た斜視図、図７は本発明の実施の形態における杖先カバーの部分断面図である。

【００３５】

図において、１１は杖、３１は袋状の形状を有し、杖１１に対して着脱自在に装着された杖先カバーである。該杖先カバー３１は、杖１１に装着されたときに石突き部２２（図３）を包囲するカバー本体３２、及び該カバー本体３２の上端の近傍において、カバー本体３２の外周面に巻装されて、カバー本体３２を杖１１に固定するための固定部材３３を備える。前記カバー本体３２の上端には、杖１１に杖先カバー３１を装着する際に、カバー本体３２内に石突き部２２を挿入するための開口部ｈ２が形成される。

30

【００３６】

前記カバー本体３２は、筒状の形状を有し、石突き部２２の側面を包囲する側面包囲部３５、及び該側面包囲部３５の下端に取り付けられ、円形の形状を有し、石突き部２２の底面Ｓ１を包囲する底面包囲部３６を備える。なお、前記側面包囲部３５は、杖先カバー３１が杖１１に装着される前の状態において、図５に示されるように、下端から上端にかけて径が徐々に大きくされ、杖先カバー３１が杖１１に装着されると、図１に示されるように、下端から上端の近傍にかけて径が徐々に小さくされる。

40

【００３７】

前記側面包囲部３５は、扇状のシート４０の両側縁を縫い合わせることによって形成された筒状体４３から成り、該筒状体４３の外周面の、円周方向における複数箇所、本実施の形態においては、８箇所に、等ピッチで高さ方向に延在させてステッチ４４が形成される。前記シート４０は、布、樹脂等の材料、本実施の形態においては、布材料から成る表地Ｓａ及び裏地Ｓｂを重ね、周縁を縫い合わせることによって形成される。また、前記ステッチ４４は、前記シート４０を、裏地Ｓｂ同士が当接する方向に折り、折り目４５から微小な、本実施の形態においては、１．５〔mm〕程度の縫い代を残して縫い目４６を形成することによって形成される。そして、シート４０に複数のステッチ４４が形成されることによって、側面包囲部３５の円周方向における各ステッチ４４間には、径方向内方に

50

向けて突出させられた複数の、本実施の形態においては、８個の湾曲部４９が形成される。

【００３８】

このように、前記シート４０に複数のステッチ４４が形成され、各ステッチ４４間に湾曲部４９が形成されるので、側面包囲部３５に張りを持たせ、カバー本体３２の強度を高くすることができる。

【００３９】

また、杖先カバー３１は、杖１１に装着される前の状態において、図５に示されるような形状を維持することができ、開口部ｈ２を開いたままにすることができるので、杖１１の使用人は、カバー本体３２内に石突き部２２を容易に挿入することができる。

10

【００４０】

前記底面包囲部３６は、前記表地Ｓａ及び裏地Ｓｂを厚紙を挟んで重ね、周縁を縫い合わせることによって板状に形成され、石突き部２２の底面Ｓ１に対応する形状、すなわち、円形の形状を有する硬質の底板部５１、前記カバー本体３２の外側底面において、底板部５１の下面に接着によって取り付けられた第１の滑止部材としての薄板状の外側底面滑止め５２、及び前記カバー本体３２の内側底面において、底板部５１の上面に接着によって取り付けられた第２の滑止部材としての薄板状の内側底面滑止め５３を備える。

【００４１】

前記外側底面滑止め５２及び内側底面滑止め５３は、いずれも、アクリル系樹脂の粘着剤、シリコンゴム等のゴム材料、ポリ塩化ビニルシート等のシート材等から成り、平坦部５４、及び該平坦部５４の複数箇所において突出させて形成された突起部５５を備える。本実施の形態においては、外側底面滑止め５２が平坦部５４及び突起部５５を備えるようになっているが、外側底面滑止め５２を、底板部５１の下面の複数箇所にゴム材料を塗布することによって形成された突起により形成することができる。

20

【００４２】

また、前記カバー本体３２の上端の近傍における内周面には、第３の滑止部材としての内周面滑止め６１が帯状に配設される。該内周面滑止め６１は、カバー本体３２の内側における各湾曲面４９の複数箇所、本実施の形態においては、３箇所にアクリル系樹脂の粘着剤を塗布することによって形成された突起６２の集合体から成る。本実施の形態において、内周面滑止め６１は複数の突起６２の集合体から成るが、内周面滑止め６１を、各湾曲面４９に水平方向に延在させてゴム材料を帯状に塗布することによって形成された帯状体から成るようにすることができる。

30

【００４３】

なお、前記内周面滑止め６１は、杖１１に杖先カバー３１を装着し、カバー本体３２内に石突き部２２が挿入されたときに、前記各突起６２が、ロッド部２１における石突き部２２より上方の部分と当接させられる。

【００４４】

すなわち、前記内周面滑止め６１は、カバー本体３２の上端の近傍で、かつ、側面包囲部３５の内周面における所定の位置、本実施の形態においては、側面包囲部３５の高さ方向における固定部材３３と同じ位置に配設される。

40

【００４５】

前記固定部材３３は、所定のステッチ４４に、ステッチ４４を形成する際に一体に縫い合わされた被係止具としてのリング状の布製のボタン通し６５、弾性材料、本実施の形態においては、ゴム材料から成り、ボタン通し６５と連結されたリング状の紐部材６６、及び該紐部材６６の所定の位置に取り付けられた係止具としてのボタン６７を備える。

【００４６】

前記紐部材６６を引き伸ばし、側面包囲部３５の周囲を一周させ、ボタン６７をボタン通し６５の輪に通すことによって、固定部材３３がカバー本体３２に巻装される。これにより、カバー本体３２の上端の近傍が絞られ、カバー本体３２が杖１１に装着される。

【００４７】

50

この場合、カバー本体 3 2 の上端の近傍が絞られ、突起 6 2 が、ロッド部 2 1 における石突き部 2 2 より上方の部分に移動不能に当接させられるので、杖先カバー 3 1 が杖 1 1 から抜け落ちることがない。

【 0 0 4 8 】

このように、本実施の形態においては、杖先カバー 3 1 を杖 1 1 に対して着脱自在に装着することができるので、杖 1 1 の使用者は、屋内に入るときに、杖先カバー 3 1 を杖 1 1 に装着することによって、屋外で使用した杖 1 1 を屋内で使用することができる。したがって、屋外で使用したときに石突き部 2 2 に付着した汚れ、ウィルス等が屋内の床面に付着することがない。

【 0 0 4 9 】

また、前記カバー本体 3 2 の外側底面において、底板部 5 1 の下面に外側底面滑止め 5 2 が取り付けられているので、杖 1 1 を床面に突き当てたときに、杖 1 1 が床面を滑ることがない。

【 0 0 5 0 】

そして、前記カバー本体 3 2 の内側底面において、底板部 5 1 の上面に内側底面滑止め 5 3 が取り付けられているので、杖 1 1 の石突き部 2 2 が内側底面滑止め 5 3 上を滑ることがない。したがって、杖 1 1 を床面に突き当てたときに、カバー本体 3 2 内で石突き部 2 2 が移動するのを防止することができるので、杖先カバー 3 1 が安定し、使用者は、杖 1 1 を床面に安定させて突き当てることができ、安全に歩行することができる。

【 0 0 5 1 】

しかも、前記シート 4 0 に複数のステッチ 4 4 が形成され、各ステッチ 4 4 間に湾曲部 4 9 が形成されるので、カバー本体 3 2 の強度を高くすることができる。したがって、杖 1 1 を床面に突き当てたときにカバー本体 3 2 が変形するのを防止することができるので、カバー本体 3 2 内で石突き部 2 2 が移動するのを一層防止することができる。

【 0 0 5 2 】

また、カバー本体 3 2 の上端の近傍における内周面に内周面滑止め 6 1 が形成され、カバー本体 3 2 の上端の近傍における外周面に固定部材 3 3 が配設され、固定部材 3 3 をカバー本体 3 2 に巻装すると、カバー本体 3 2 の上端の近傍が絞られ、突起 6 2 が、ロッド部 2 1 における石突き部 2 2 より上方の部分と移動不能に当接させられる。したがって、杖 1 1 を床面を突き当てたときにカバー本体 3 2 が変形するのを一層防止することができる。

【 0 0 5 3 】

なお、本発明は前記実施の形態に限定されるものではなく、本発明の趣旨に基づいて種々変形させることが可能であり、それらを本発明の範囲から排除するものではない。

【 符号の説明 】

【 0 0 5 4 】

- 1 1 杖
- 2 2 石突き部
- 3 1 杖先カバー
- 3 2 カバー本体
- 3 3 固定部材
- 3 5 側面包囲部
- 3 6 底面包囲部
- 4 4 ステッチ
- 5 1 底板部
- 5 2 外側底面滑止め
- 5 3 内側底面滑止め
- 6 1 内周面滑止め
- S 1 底面

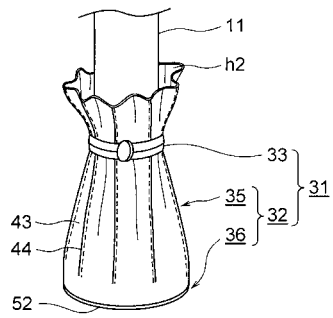
10

20

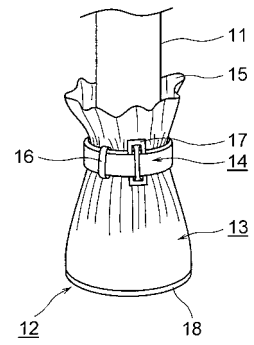
30

40

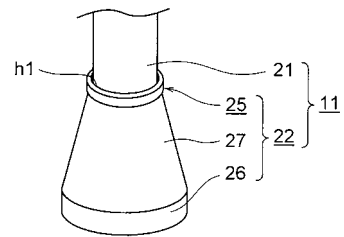
【 図 1 】



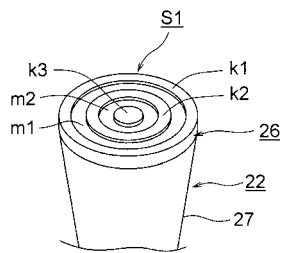
【 図 2 】



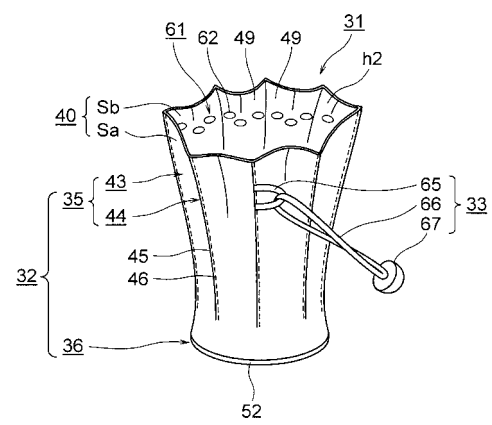
【 図 3 】



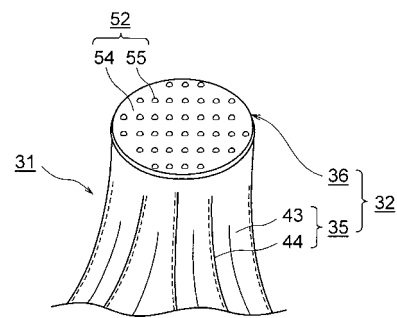
【 図 4 】



【 図 5 】



【 図 6 】



【 図 7 】

